

お天気解説 アキラのズバツと

天気予報の昔・今

令和7年5月30日

江戸川区気象防災アドバイザー 藤井 聡

「全国一般風ノ向キハ定リナシ 天気ハ変リ易シ 但シ雨天勝チ」

これ、何だと思いませんか？実は、日本で初めて発表された天気予報です。6月1日は「気象記念日」、今年は気象庁の業務開始150年という記念の年です。当時はこのような地方ごとの天気予報ではなく、全国に向けての予報でした。このような予報文を書いた掲示物を交番等に掲示し人々に知らせたそうです。



図 中央気象台の様子(気象庁HPより)

気象観測は、露場にある温度計や雨量計の表示を職員が昼夜24時間、眠い目をこすりながら読み取って観測野帳に記録していました。全国各地の測候所等から午前6時の観測結果を電報で中央気象台（気象庁の前身）に伝えられ、天気図用紙に記入して天気図を作成していました。当時の予報は職員が作成していましたが、広域の予報だったので「曇り時々晴れ 所によって一時雨」のような予報も多く、昭和の戦後になっても的中率は高くありませんでした。大雨や台風をうまく予測できず、犠牲者が300人を超すことも度々ありました。

70年代に入り、観測を自動的に行う測器が開発され全国約1300か所に配備されました。アメダス（AMeDAS=Automated Meteorological Data Acquisition System）と名付けられ、予報に重要なデータになっています。また、気象レーダーや気象衛星による観測も始まり、大雨をもたらす雨雲や、台風の発生発達もリアルタイムで分かるようになりました。天気予報もコンピューターが計算して行う数値予報が開発され、天気予報や防災気象情報の発表もきめ細かにできるようになり、予報技術は飛躍的にアップしました。その結果、予報の的中率は80～90%に上昇し、早期に具体的な防災情報を発表できるようになって、今では、大雨や台風による犠牲者は昭和時代よりもずっと少なくなっています。

2025年05月30日11時 気象庁 発表				
日付	今日 30日(金)	明日 31日(土)	明後日 01日(日)	
東京地方	雨時々止む 	曇時々雨 	曇時々晴 	
降水確率(%)	-/-/70/60	70/80/60/40	30	
信頼度	-	-	-	
東京 気温 (℃)	最高	17	17	26 (24~28)
	最低	-	13	16 (15~18)

東京地方の週間天気予報

(気象庁HPから抜粋)

土曜日は雨が降りそうなので、外でのイベントはちょっと難しそうですね。日曜日は晴れるようです。

クリックすると気象庁による新しい情報が見られます。